

岡田宮

宝永4年(1707) 貝原益軒書

第64号

平成29年11月吉日
発行 岡田宮社務所
郵便番号 806-0033
北九州市八幡西区岡田町1番1号
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330
ホームページ http://www.okadagu.jp/
Eメール okada_guu@yahoo.co.jp

年末年始の行事案内

●大祓

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となって各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

十二月三十一日

●どんど焼祭

古くなったメ縄、門松等を焼納する神事。

一月十四日(日)

地元の有志による餅まき、神酒接待、ぜんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。

形式に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹き掛け初穂料(お思召し)と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代か岡田宮社務所迄お届け下さい。

●歳日祭

一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにと願う神事。

午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。

●開運福引き

一月一日〜三日

一枚五百円でハズレなし。一等は羽根ぶとんなどが当ります。新年の運だめしにどうぞ。



岡田宮所蔵の三条実美の和歌

玉ちはふ 神してらせハ 世中の ひとのまことろ かくれやハする 實美



この和歌の大意は、「霊力を振るって加護してくれる神が光を照らしてくれるならば、世の中の人の真心が隠れるだろうか、いや隠れはしない」。明治元年(二八六八)から一〇〇年後の昭和四十三年(一九六八)十二月に造られたこの歌の碑が、岡田宮隨身門の階段下右側に立っている。さて、和歌が納められている木箱蓋裏側には次の覚書が貼付されている。

慶應元年正月拾七日前中納言三条実美卿、大宰府流謫の途次、黒崎宿櫻屋黎明外聞を避けて竊かに徴行 岡田宮に奉幣祈願を籠められたる 大宮司波多野安藝守直足に心想ノ和歌一首賜り也

従士 土方楠左衛門久元

(※ルビは筆者による)

三条実美(一八三七―一九一)は、幕末の公家で、明治維新後に太政大臣・内大臣を務めた。幕末、尊王攘夷派の中心として活躍したが、文久三年(一八六三)八月十八日の政変で京都を追われ、長州藩領に落ち延びた(七卿落ち)。さらに、元治元年の第一次長州征討で長州藩が降伏すると、征討軍解兵の条

平成30年算賀の年祝

(年齢は数え年)

還暦	六十一才	昭和三十三年生
古稀	七十才	昭和二十四年生
喜寿	七十七才	昭和十七年生
傘寿	八十才	昭和十四年生
米寿	八十八才	昭和六年生
卒寿	九十才	昭和四年生
白寿	九十九才	大正九年生

平成30年の八方除

九紫火星の方

生年	年齢(数え年)
昭和十二年	八十二歳
昭和二十一年	七十三歳
昭和三十年	六十四歳
昭和三十九年	五十五歳
昭和四十八年	四十六歳
昭和五十七年	三十七歳
平成三年	二十八歳
平成十二年	十九歳
平成二十一年	十歳

平成三十年の厄年

(年齢は数え年)

厄年(男)	厄年(女)
二十四才 前厄	十八才 前厄
二十五才 大厄	十九才 大厄
二十六才 後厄	二十才 後厄
四十一才 前厄	三十二才 後厄
四十二才 大厄	三十三才 大厄
四十三才 後厄	三十四才 前厄
六十才 前厄	六十才 前厄
六十一才 大厄	六十一才 大厄
六十二才 後厄	六十二才 後厄
六十七才 前厄	六十七才 前厄
六十八才 大厄	六十八才 大厄
六十九才 後厄	六十九才 後厄
七十四才 前厄	七十四才 前厄
七十五才 大厄	七十五才 大厄
七十六才 後厄	七十六才 後厄
八十一才 前厄	八十一才 前厄
八十二才 大厄	八十二才 大厄
八十三才 後厄	八十三才 後厄
八十八才 前厄	八十八才 前厄
八十九才 大厄	八十九才 大厄
九十才 後厄	九十才 後厄
九十四才 前厄	九十四才 前厄
九十五才 大厄	九十五才 大厄
九十六才 後厄	九十六才 後厄

◆厄年大祭 二月節分日

十八才 前厄	平成十三年生
十九才 大厄	十二年生
二十才 後厄	十一年生
三十二才 前厄	昭和六十二年生
三十三才 大厄	六十一年生
三十四才 後厄	六十年生
三十六才 前厄	五十八年生
三十七才 大厄	五十七年生
三十八才 後厄	五十六年生

岡田宮所蔵の三条実美の和歌

玉ちはふ

神してらせハ

世中の

ひとのまことろ

かくれやハする

實美

件として、五卿(七卿のうち二人は病死・逃亡)は

長州藩領から福岡藩領の大宰府に移送された。

元治二年(一八六五)一月十五日、

五卿らの一行は筑前国黒崎湊に上陸し、黒崎宿の御

茶屋等に十八日まで滞在した。現在「史蹟五卿上陸地」

の石碑が八幡西区舟町に立っている。上記の覚書に

よると、十七日明け方、実美は土方久元(楠左衛門、

一八三三―一九一八、のちの宮内大臣・伯爵)を従え、

密かに岡田宮に参拝し、この和歌色紙を大宮司波多

野直足に与えた。

現宮司の波多野直之氏のご教示によると、岡田宮

の氏子である黒崎田町桜屋の古海(宇都宮)正蹟が

実美を同宮に案内したのではないかとこのことである。

私もその説に賛同する。

そうした背景を考えると、和歌の意味が分かってくる。政争・戦争に敗れ、遠く九州の地まで落ち延びて来た実美が、「世の人の真心(尊王の志)が衰退するだろうか、いや衰退するはずがない。岡田宮に祀られる神々が加護してくれるのだから」という思い(「心想事成」)を和歌に込めたとも考えられる。

その祈願が通じ、二年後の慶応三年(一八六七)十二月九日、王政復古の号令が発せられると、実美は京都に呼び戻され、元の官位に復した。十九日に大宰府を立ち、二十七日に京都に到着した。今から、ちょうど一五〇年前のことであった。(北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 守友 隆)

目次

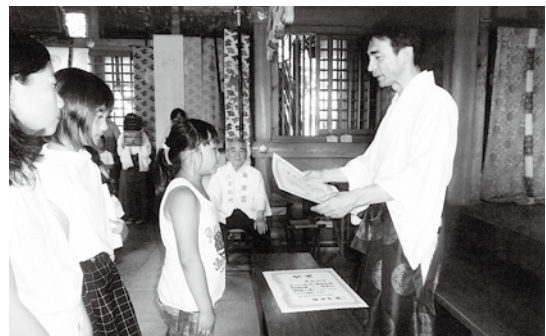
岡田宮紀行④	1
波多野直之宮司昇級奉告祭	2
神社なぜなぜ問答 64	2

第二十三回 岡田神社書道展	3
年末年始の行事案内	4
平成30年の厄年	4

会期 平成29年7月25日(火)~31日(月)
表彰式 平成29年7月29日(土)
総出品点数 769点

第二十三回 岡田神社書道展

小3	小2	小1	特選	中3	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	総代会長賞	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	岡田宮賞										
早川	三好	花田	秋山	田原	荒瀬	浅海	小茅	江口	田中	武田	金城	戸川	久野	武田	齊藤	山下	武田	小島	和日	石日	岩熊	上野	下田	秋山	後藤	岩熊	彌勒	吉良	有岡			
莉音	涼都	修志	太志	綾乃	結衣	聡美	沙紀	佐奈	有珠	優芽	陽士	里美	聖大	雛も	恵子	彩子	日菜	一冉	りほ	蓮	敢介	ゆり	紗希	奈日	聖日	汐莉	美佳					
富原	青井	三浦	植田	荒竹	花田	今井	首藤	高田	武田	藤川	安村	今村	古賀	田嶋	伊藤	御手洗	田野	重岡	山本	田上	横山	前田	井関	恵良	武田	敷田	豊島	植崎	野口	原	下田	
日向	万葵	海月	唯斗	晃平	愛珠	乃愛	誠	琴	征也	未祐	治都	心美	夏希	優奈	直	香澄	美空	華音	蒼宇	芽依	心絆	彩葵	悠翔	将輝	幹太	かこ	勇斗	翠	聖	遙介		
井原	村上	香月	彌勒	森下	浅井	小島	利光	今村	安田	岸本	鶴田	有岡	筒井	田中	樋口	開田	高良	能間	隈部	鬼ヶ	野崎	白澤	林	甲斐	渡邊	福田	橋本	吉村	平野	冷牟	梅野	植崎
里彩	真奈	千尋	真緒	純麗	結子	佳那	真奈	々紗	初春	萌花	真菜	優衣	友海	愛梨	鈴菜	結子	優那	結菜	千夏	壮太	愛美	輝	南美	怜	香里	匡由	真華	初	真優	真州	夢奈	



岡田神社の境内にあるスタジオ

お宮参り・七五三の参拝時の着物レンタルが0円から借りられます。

16,000円~ (四切り2枚・衣裳・着付・ヘアメイク付)

有川写真館
岡田神社 STUDIO
北九州市八幡西区岡田町1-46 093-621-2080



波多野直之宮司昇級奉告祭 平成29年6月15日 (波多野宮司の神職身分が上がりました)

神社なぜ問答 (その64)

お稲荷さん その② 初午にこいつを教えます。

二月最初の午の日に、京都の伏見稲荷大社をはじめ、全国各地の稲荷神社などでは初午祭がおこなわれます。

初午の日は、和銅四年(七一)二月のこの日に稲荷神が初めて三ヶ峰(稲荷山)に降臨されたことに因むもので、このことが稲荷神社の総本社である伏見稲荷大社の鎮座の由来ともなっており、全国の稲荷神社では特に重要な日として祭事がおこなわれています。

初午の行事は中世からの稲荷信仰の普及とともに、庶民の間で全国的に広まりました。この時期は農事始めともなっているため、その年の五穀豊穡や、養蚕地帯では繭玉を供えて養蚕の祈願をおこなったり、漁民の間では豊漁の祈願がおこなわれたりします。また、現在では商売繁盛・事業繁栄などを願う参詣者で各地の神社が賑わいます。

(一)『山城国風土記』逸文には、秦公伊呂具は稲を積み上げるばかりに富裕でしたが、その富に奢って、餅を的として矢を射たところ、たち

まち餅が白い鳥に化して飛び去ってしまった、山の峰(稲荷山)に留まったとあり、そこに稲が穂つたため、「イネナリ」から「イナリ」の社の名がついたとあります。

その後、伊呂具の子孫がごおこないを悔いて、稲荷山の木を家に持ち帰って神に祈り祀ったとあり、その木を植えて根づくこと福がもたらされるとの伝承が記されています。これは初午の際に伏見稲荷大社で頒布される「験の杉」の由来となっております。この杉は各家庭に稲荷神を招来するものとして信仰されています。

稲荷神は、後に仏教の茶吉尼天と習合したため、愛知県の豊川稲荷など仏教系の稲荷祠のほか、家庭や企業でお祀りされている稲荷社などでも初午の行事が盛んにおこなわれています。

神社本庁・(二)祭祀祭礼データによれば、全国に「稲荷神社」は約三千五百社あり、広く全国的に分布しています。

(一)風土記
一五頁注(二)参照

(二)祭祀祭礼データ
神社本庁が平成二年から五ヶ年計画で実施した「全国神社祭祀祭礼総合調査」の結果をデータとして集積したもの。平成七年時点で全国約八万社の基本情報(神社名・鎮座地・他)、祭神情報、祭礼情報及び由緒書などを構成されている。